

さんくす

発行:笠懸町第三区広報委員会

発行所:笠懸町第三区公民館

https://sannkusu-kasakake.com

sannkusu.kasakake@gmail.com

阿左美アンダー通学路訓練



横断訓練を行う子どもたち

旧阿左美駅で使われた自転車置き場の撤去作業が、阿左美アンダーの本工事に先駆けて9月7日(月)に行われました。

また、阿左美アンダー県道以北の工事に伴って

通学路が変更され、新通学路は信号の横断歩道を渡り、旧阿左美駅から阿左美アンダーへ続く階段を通る事になりました。

伊勢崎県道の横断は通学路のなかで危険性が高いため、阿左美アンダーを利用する一、二、三区の児童が旧阿左美駅付近の信号で集合し、旧阿左美駅の階段から阿左美アンダーを経て東小学校歩く訓練をしました。

東小では9月8日(火)に低学年(1年生)交通安全教室が行われ、保護者や先生の指導を受けて新コースである県道の集団での横断訓練がおこなわれました。訓練は随時行うことになっていますが、交通量が多く渋滞も発生している箇所だけに、更なる訓練等が必要なようです。

県道工事管理者である桐生土木事務所に対して、児童横断中といった注意勧告看板など、交通安全の掲示物設置の確認も行いました。特に工事期間中は各関係団体の交通安全に対する深い連携が求められるほか、最終的にはドライバーの交通安全運転が大切です。2面に関連記事。



通行止めの標識

行政区の動き

区長 赤石太郎

新型コロナウイルス感染症を鑑み、三区行政区として、住民の安全な生活の手助けを小さなことから始めたいと考え、防災マスクの備蓄を検討しています。

災害時の避難所でもある三区公民館建物も修理が必要であると、前区長からも提示がありました。数年前から雨樋修理が言われ、昨年度の事業で行われました。そして、公民館修理で金額の多くかかる問題として、屋根の塗装があります。10年程度での塗り替えが理想で、本年度で10年を経過します。

現在は調査を依頼してあります。見積もりは次年度以降の予算に計上すべき事柄だと感じています。

また、公民館西側テラスでの喫煙問題や対策のため、ダミーのカメラを付け、警告文を掲示しました。禁煙となる公民館と建物周囲で灰皿が放置されていることや、不法に置かれるゴミと分別問題など、解決すべき課題は多くあります。

散歩道 (14) 笠懸野文化ホールPAL (パル)

パルの愛称で親しまれる笠懸野文化ホールは、平成5年に29億円の総工費をかけ完成しました。収容人員は固定席1016席の他、親子席5席や車いす席3席も確保してあります(写真:PALのホームページから)。

ホールとしての特徴は残響時間が少し長く、クラシック音楽などに最適な音響特性を備え、音響に優れるホールとして新聞でも取り上げられています。また最高峰と言われるスタンウエーのグランドピアノも備えてあることから、レコーディングホールとしても使われていて、多くのCDがリリースされています。

ホール建設の目的は、地域の人が音楽や舞台芸術



に触れる機会を増やし、芸術文化を育てる事だったように思われます。それは同時に子どもたちの未来への投資だったと言えるかも知れません。

しかし、合併によりみどり市となり、市の財政と運営が切り離せないものとなってきました。つまり、収入と経費のバランスが問われる訳です。そのために市では指定管理者制度へ移行の案も浮上しています。

ホールに求められる収益と、その反面で失われる数字に表れない価値とのバランスが問われます。芸術文化、子どもたちの未来への投資など建設当時の志、市民のためのホールのあり方が問われています。

新型コロナウイルス感染症対策と 災害避難所のあり方と避難の考え方

大雨や台風などにより避難が必要な地域では避難所に人が密集して、新型コロナウイルスに感染する心配があります。



新型コロナの感染が心配される中、私たちは避難が必要となることが予想された場合に、どのような行動や判断をしたらよいでしょうか。

コロナ禍で推奨されるのが「分散避難」です。「親戚・知人宅」、「ホテル」、「在宅避難」、「車中泊」などさまざま

な避難先に地域の人たちが分散して避難して密集を避けることが大切になります。

また、広報みどり令和2年7月号に「自らの命は自らが守る、自らの判断で適切な避難行動をとりましょう。」と題して特集が掲載されています。

その中に、新型コロナウイルス感染防止対策として、まずは安全な場所にある親戚、知人宅への避難が推奨されています。また、避難所に避難する場合にはマスク、消毒液、体温計の持参が推奨されています。

このように新型コロナウイルス感染症対策と災害避難所のあり方、避難の考え方として、まずは無理のない範囲で「在宅避難」(自助)を検討し、次いで「親戚や知人宅への避難」(共助)、最終段階として指定避難所(写真:地区公民館)へ避難(公助)という段階の避難が推奨されています。



阿左美アンダー、工事始まる

東武桐生線のアンダーパス、阿左美アンダーの工事が始まりました。工期は令和4年5月まで。

車両は下山商店脇から南光寺西、桐生伊勢崎線、まなび橋へ迂回となります。

安全安心推進委員会、青パトの活動現状と課題

委員長 森田 敏章

笠懸町第三区安全安心推進委員会は各種団体の協力により、男性73名、女性31名の合計104名で構成されています。火曜、木曜の15時30分と19時から2回、ともに1時間のパトロールを実施しています。

一旦は落ち着いたかに見えた新型コロナウイルス感染症も収束する気配がなく、これから冬にかけて拡大することが懸念されています。このような状況の中で、感染防止策として8月15日から来年3月まで活動を休止し、4月から再開する予定です。

会員の皆様も高齢の方が多く、年を重ねるにつれて瞬時の対応や総合的な判断が遅くなりがちです。青パト車を運転する方は、細心の注意を払って、安全運転を心がけて下さい。

青パトは安全安心なまちづくりに向けた、地域の防犯活動に効果的と考えています。青パトの活動に興味のある方は、お近くの会員や、行政区役員などに声をかけて下さい。引き続き会員及び区民の皆様のご協力をお願いいたします。

荒神山散策記 (3) タマゴダケ

今回は第三回目です。荒神山に咲く、初秋の山野草を紹介します。

キツネノカミソリ、ヤマユリ、ジャケツイバラ等の夏の山野草が終わると、初秋の山野草たちがハイカー達を楽しませてくれます。カラスウリ、アキノタムラソウ、オクモミジハグマ等を見ることができます。

カラスウリの花は午後8時頃に開花し午前4時頃にはしぼんでしまう一日花なので、一般の人はレースを広げたような美しい雄花を見ることはできません。しかし、秋になり周りの木々の葉が散りだすころに、オレンジの実を見ることができます。雌花にしか実は見つからないそうです。去年、拾ってきた実を庭に埋めておいた



ら発芽して少しは成長しましたが、残念ながら花はつきませんでした。多年草なので来年に期待します。

9月になるとキノコのシーズンです。タマゴダケ、シロオニダケ等の色々なキノコをあちらこちらに見ることができます。ただ、タマゴダケは最近、食用として採取されるようになり、傘が開く前のかわいい形のタマゴダケを見ることが稀になりました。

この夏も、荒神山から茶白山、八王子山へのハイキングコースは、多くのボランティアさんのお陰でコース脇の雑草が刈られ、また急斜面には階段が普請されて、安全に楽しめるコースになりました。皆さんも是非一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

三区の自主防災(2) 災害対策の備品

災害への装備は平成28年度宝くじによるコミュニティー事業助成金を受けて購入しました。助成金申請は前年の27年で、自主防災組織立ち上げ前である事から、防災用具としての購入は叶わず、地域活動の中で防災に活用できるものを揃えました。

公民館西側にある物置がそれで、中には発電機2機、トランシーバー9台、炊き出し用のかまどとガスバーナー、簡易テーブル、テントなどがあります。

防災組織立ち上げ後には、投光器、コードリール、水タンク、レスキューシート、エアークッション、ブルーシート、ロールマットなど装備を拡充させました。

他の行政区では食料品の備蓄もありますが、三区では備蓄していません。これは、食料には賞味期限があるほか、食料の補充を維持するための経費が膨大なことが挙げられます。

それでは食料をどうするかというと、下山商店では「三区区民全員が1週間食べるくらいの水の備蓄はある」とのこと。また、森田石油にはガソリンを残して戴く事で、食糧の

確保や災害復旧活動が出来る判断したためです。なお、納涼祭の舞台に使われるパネルは畳2畳の大きさの

ものが20枚あり、これを組み合わせることで避難者のプライバシーを守る仕切りに使えるほか、簡易な小屋であれば製作が可能です。

平成28年の自主防災組織立ち上げ時に考慮されたのが、東日本大震災など地震を想定したものでした。しかし、新たにウイルス感染症対策のための備品も新たに揃えました。写真:体温計と健康チェックシート



笠懸東小学校5年生が稲刈り体験授業

10月14日(水)、笠懸東小学校5年生による稲刈り体験授業が学校の北側の水田で実施されました。

例年は6月に田植えを体験しますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、稲作り支援者が田植えをしました。その後は長梅雨や猛暑、10月の曇天続きなどで稲の生育が心配されましたが、無事に収穫の秋を迎え、待ちに待った稲刈り体験授業が行われました。

この体験授業は農作業を通じて学校生活の思い出作りのためと、農と食の大切さを学ぶため毎年実施されています。今年はコロナ対策としてマスクを着用し、密を避けるため2班に分れて実施しました。

支援者から刈取り方法や縛り方など作業の手順や注意点などの説明がありました。最初は生徒達も慣れない手つきでしたが、少しずつコツを掴み順調に作業が進みました。刈り取られた稲穂は一週間ほど天日干し、脱穀などを経て、赤飯として食するそうです。

三区広報誌「さんくす」からのお知らせ

さんくすでは一緒に広報誌を作る仲間を募集しています。また、記事や写真の投稿も募集しています。季節感のある写真や、決定的瞬間、楽しい写真など。このほか、疑問や要望もお寄せ下さい。取材して掲載します。投稿先は次のアドレスまで。 sannkusu.kasakake@gmail.com

令和2度特別区費、事業所

三区やその近郊で事業を営む39事業所から、特別区費を戴きました。集まったお金は、区の運営に活用されます。事業所は以下のとおり(順不同)(有)サンビーシー群馬工場/ローソン笠懸阿左美店/岩瀬産業/テクノオリジン(株)/忠兵衛茶屋(有)/創健社/はしづめ歯科医院/窪田縫製(有)/アライサンズ(有)笠懸第一工場/新井木工(有)笠懸工場/業務スーパーパスポート笠懸/小室歯科クリニック/くりた医院/メンズプラザAOKI笠懸店/セブンイレブン桐生バイパス店/沼田屋タクシー(株)/三恩会東邦病院/(株)河内種苗店/スズキ自販群馬(株)桐生営業所/稲川工業(有)/関東マツダ桐生笠懸店/志なの屋/桐生卸売市場/あすからいふ倶楽部/上毛バナナセンター(有)加工所/かさかけメモリードホール/桂建設(株)/澤アパート/あざみん家/東武観光北関東営業所/タックス桐生/ビックマーチ桐生店/東邦薬品/グリーン歯科クリニック/フレッシュイ/スロー/フィッ茶ネス竹とんぼ/金子耳鼻咽喉科クリニック/萬家笠懸店

農業を水で支える大間々用水土地改良区

古来より当地域は大間々扇状地の中央部で笠懸野とよばれ、地下水脈が低く水の確保が難しい地域でした。また、土壌もローム層の下は砂礫層で保水力がなく、降水がないと干ばつを受けやすい土地柄でした。

昭和32年度から41年度に実施された大間々用水土地改良区の県営かんがい排水事業また関連事業として団体営農事業により用水の確保と地下に埋設されたパイプラインの畑灌漑用水施設により農作物に不可欠な用水が天候に左右されず、必要に応じて簡単に給水出来るようになりました。

その結果、養蚕の衰退と共に桑園から甘藷や大根など露地野菜に切り替わり、スイカやトマト、トウモロコシなどトンネル栽培を経てビニールハウス栽培による施設園芸へと変遷してきました。

当地区内では、この畑灌漑施設が笠懸南中学校周辺のビニールハウスを利用したトマト、ほうれん草、なす、などの施設園芸野菜と夏秋ナス、ブロッコリー、ほうれん草(写真)などの露地野菜を組み合わせ一大野菜産地として農業経営に大きく貢献しています。

現在の大間々用水土地改良区は、赤城山南麓東端の大間々扇状地に広がるみどり市、桐生市、伊勢崎市の3市にまたがる300ヘクタールの畑地帯に農業用水を給水するため関連施設の維持管理をしています。



事業所紹介(1) 東邦病院

医療面積規模は総ベット数443、診療科20を超えるもので、全国的に見ると中核レベルの病院です。

高度で最新の医療施設、装置を導入し、良質な診療が可能で、多くの人々に広く信頼され認知もされた病院ともいえます。

高齢化社会の中で、地域医療と介護との連携を行うなど、私達の生活に不可欠な病院になっています。

施設内容としては、循環器センター、腎臓透析センター、消化器病センター、リハビリテーションセンター、健康増進予防医学センター、外来診療、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿甲状腺内科、外科、整形外科、眼科、歯科口腔外科など充実しています。東邦病院のスローガンは「まごころ診療で

思いやりとやさしさを提供する」ということです。



ソフトボールメンバー大募集 三区居住者の有志が活動しているソフトボール愛好会「ニューリーブス」

(監督:武井康則)を紹介します。現在のメンバー数は12名、創設は1975年、チーム結成の由来は当時の三区女性バレーボールチーム「若葉会」の英語表記でチーム名を「ニューリーブス」とした45年の歴史あるチームです。この広報誌で5年前にチームの活動を紹介したところ、1名の加入があり現在も活躍されているそうです。

活動内容は年間15試合程度、日曜日の早朝にリーグ戦で試合開始、8:30には終了します。今年は新型コロナウイルスの影響により7月頃から活動を開始、10月25日に開催されたリーグ秋季大会では、6年ぶり5度目の優勝を達成してメンバーも喜んでいました。しかしメンバー数が少ないため、仲間を募集しているとのこと。募集内容:男女問わず20歳~60歳位。年会費5,000円。連絡先:武井090-5808-3753(18:00以降)



ちょっとピンぼけ

いいなあと思った街路樹があると時々その種を拾ってまいてみます。これまで、ロウバイ、トベラ、ナツツバ



キの種子をまいてみました。ロウバイとトベラは簡単に発芽しましたが、ナツツバキは上手く発芽しませんでした。そこで冷蔵庫に入れたらその後ポツポツと発芽してきました。

また、自宅の庭にコウヤマキがあるので、挿し木で

増やし垣根に使おうと思い試してみました。挿し木の方法を調べて700株位しましたが、約1年経過しても発根したのはたった20株でした。

コウヤマキは挿した後も長い間枯れずに葉が緑色で、一見、根が出ているかのように見えますが、抜いてみると発根していない株ばかりでした。なかなか難しいと感じました。

写真はマツの種から生えた実生です。種をまいてからかなりの月日が経過していたため、はじめは何かわかりませんでした。よく見ているうちにマツだと判り「へえー、こういうふうに分芽してくるんだ」と感動しました。新型コロナの中、自宅で出来る種から育てる「庭いじり」も楽しいものです。